

令和2年度授業評価

伊那北高等学校長

令和2年度に実施しました授業評価における教科の検討結果は次の通りです。これらの検討結果を授業改善に活用してまいります。なお、個人情報に関わる記述等については記載していません。

国語科

全授業で基本的に導入しているグループワークは、考え方の交流が図れたり、意見が出しやすかったりするため、概ね好評だった。また全授業で導入している電子黒板の利用についても、評価する意見が多く、特に古典のあらすじをアニメーション化したものは好評であった。電子黒板については画面の切り替えの速さなどに関する意見もあった。通常の黒板との併用も含め、ICTを効果的に使った授業展開を研究していきたい。

地歴公民科

1・2年生の中には双方向の授業を求める声がみられた。ただグループ学習などアクティブな授業を求める一方で、不安感を持つ生徒もいることも事実である。来年度以降もコロナ下において、授業の進度を確保する必要もあり、また今後の新教育課程において新科目に移行していく中で、どのような展開が望ましいのか、可能なのかも考慮しながら、引き続き、集中力を維持する工夫・努力を継続していきたい。

数学科

1 学年

家庭での学習時間が取れない生徒が増えてきたので、学習時間の確保を図りたい。また、長期休業で基礎学力の充実を図りたい。

2 学年

生徒の授業に対する受け止め方が幅広くなっている。意欲の低い生徒を授業に向かわせることが課題である。引き続き予習・復習・課題にしっかりと取り組ませたい。

3 学年

予習復習が足りていないので、取り組ませる工夫が必要である。センターから共通テストに変わり、考える問題が多くなり覚えるだけでは不十分なので、「数学的に物事を考える力」を身に付けさせることが課題である。数学Ⅲを最後まで諦めず取り組ませていきたい。

情報科

生徒が自主的に活動できる時間や情報のインプット・アウトプットをする授業の展開を増やしたが、概ね満足という結果であったので、これからも継続していく。技術的な指導の時間も確保しながら積極的に取り組める工夫をしていきたい。

理科

概ね満足のいく授業であったようだ。前回の授業の内容を授業中に確認していくなど、復習の時間を授業時間内に取り入れてほしいとする意見が多数あったので、積極的に取り入れていきたい。3年生は授業中に演習を多く取り入れてほしいとの要望も多く、こちらも積極的に取り入れていけるように、授業のペース配分を工夫していきたい。

保健体育科

★**体育** 概ねどの項目も良好な結果と捉えている。予習・復習や課題を出しているわけではないが、実生活における健康、安全のとらえ方や生涯スポーツの一環として取り組んでくれることを期待したいと思う。また、コロナ禍における体力低下は見られた。どのように体力が変化しているのかを理解し、どのように運動を生活に取り入れていくかを考えることができるようになって欲しい。このような状況ではあったが、準備体操もしっかり行うことができ、大きな怪我もなかったため良かったと考えている。

★**保健** 概ね良好な結果と捉えている。心身の健康維持のための行動や思春期をどのように生きていくのかを考えさせながら授業を展開しているが、実生活と絡めて考えられるようになって欲しいと思う。また、今年度は感染症への対策や自らの行動、社会における対策等も考えさせ、今を前向きに生きるために必要なことも授業内で取り入れた。良かったと感じている。

芸術科

1 学年

◆美術

どの項目もおおむね良好だと考える。説明が長いといった指摘がある。説明など例年と同じに行っているのだが、自分の制作に関わらない話は聞きたがらないのかもしれない。これからもさらに充実した学習となるよう生徒の実態に即した指導方法を工夫していきたい。

◆音楽

概ね生徒が納得できる授業となっているととらえている。少数の声にも耳を傾けながら、引き続き授業の中で生徒の様子を観察し、直接的な対話を通してより良い授業を模索していきたい。

2 学年

◆美術

どの項目もおおむね良好だと考える。これからも個々の生徒の実態を見極めながら、満足できる学習を工夫していきたい。

◆音楽

良好な結果ととらえている。今年度は履修者が一人だったため、ニーズに沿った授業を進めてきた。

3 学年

◆美術

おおむね良好だと考える。美術系進学志望の生徒にとっては、授業時間だけでは満足のいく学習にはならないので、自主学習をもっと強く働きかけたい。

◆音楽

良好な結果ととらえている。少人数講座であることを生かし、生徒一人ひとりと対話をしながら授業を進めていきたい。

英語科

1 学年

◆コミュニケーション英語 I

全体的に意欲的・積極的に、集中して授業に取り組んでいるようだ。コメント欄を見ても、前向きに取り組んでいる意見が多い。

電子黒板、デジタル教科書の利用については好意的なコメントが多かったが、画面の切り替えが早い、追加的に記入された手書き文字が読みにくいという指摘があった。

◆英語表現 I

コミュニケーション英語 I に比べ意欲的・積極的に、集中して授業に取り組めてはいない傾向が見受けられる。テキスト中心の学習であるが、より密度の濃い授業になるよう、研究を重ねたい。

共通テストが旧来の形式に戻る可能性がないとすれば、今のように文法用語の説明、文法問題特有の傾向に対処する取り組み方については一考を要する。生徒の中にわずかであるが、授業の大半の説明がわからない、とコメントした生徒がいた。本校においても学力幅が大変広く、中学の初期段階で理解が止まっている生徒の対応には放課後等を利用し個別指導での対応を検討する。

2 学年

◆コミュニケーション英語

多くの生徒が意欲的に授業に取り組み、満足しているようだった。自分自身の取り組みを見直すようなコメントも多かった。授業中に言語活動の時間を設けているが、難しいが取り組んでいて力になるという意見と、発表は負担が大きいので時間をもう少し割いて欲しいという意見があった。

◆英語表現

コミュニケーション英語同様満足のいく授業という回答が多かった。進度が速く、授業内容が難しいという意見が寄せられていたが、進度は落とせないとため現在の授業内容を一部見直す必要がある。

◆英語総合

英語を得意とする生徒が多いわけではないが、英語スピーチやプレゼンテーションに挑戦することに意欲的な生徒が殆どだった。他の生徒と取り組む活動が意欲に繋がっているという回答が多かったので、今後も定期的に言語活動を盛り込みたい。

3 学年

◆コミュニケーション英語

英文読解問題が共通テスト問題を占めている事から、各自目標や課題意識を持って授業に臨んでいるのが良くうかがわれる。精読にむけた解説には、熱心に聞き入っている。生徒からの授業評価では、自らの態度や意識、教員の授業に向けた意見の両者とも満足を感じている生徒が多かった。生徒の欲求にきちんと答えられる授業を引き続き目指したい。

◆英語表現

予習をしっかりと良く取り組んでいる生徒が多い。文系、理系を問わず、入試での英作文や要約問題が増加している中で、生徒も傾向と対策を知るにつれ、授業では積極的に取り組んできた。基本を押さえつつ、複数の解答例を示したり、書き換えなどの演習を入れることが、生徒にとって安心して取り組める素養であり、満足の度合いが高いとうかがわれる。引き続き実践的な指導を継続したいと考える。

◆英語探求

予習をしっかりとした上で授業に臨んでいる生徒が多い。長文読解の繰り返しという単調な内容だが前向きに取り組んでいる印象である。コロナの影響もあり、グループワークは避けて授業を進めてきたが「自分の頭で考え、自ら学ぶ力がついたか」と言う間に「はい」と答える生徒が多かったのは意外だった。

◆英会話

A L T のレイラ先生とのティームティーチングで授業を進めた。

会話の授業なので出来るだけ話す機会を作り、様々な場面で使える英語を生徒一人一人が話せるようになるという目標を立てた。ほとんどの生徒がレイラ先生の授業を楽しみにして、英語を話すのに抵抗があまりなくなったという意見だった。ただ、レイラ先生の授業のない日に使用する総合問題集が物足りなかったとの意見が若干あり課題についての検討が必要である。

◆プラクティカル・ライティング

毎回授業の前半は、テーマを与えてそれについて英文エッセイを書かせた。最初はほとんど書けなかった生徒が最終的には A4 1 枚に、起承転結を考えて書けるようになった。後半の問題集には、積極的に取り組み、単語や熟語の使い方にも注意して英語らしい文を書くことが出来るようになった。

家庭科

どの項目においても、概ね肯定的な意見が多かった。さらに生徒が興味関心をもち、意欲的に授業に取り組めるような教材研究と授業方法に努めたい。また自由記述では、授業進度について「速い」「ちょうどいい」「遅い」それぞれの意見や、授業内の説明では「丁寧で良い」と「説明の必要ない」など両方の意見があり対応に苦慮しているが、グループワーク等積極的に取り入れ、生徒が主体的に取り組める授業内容の工夫をさらに検討したい。